

「聴く耳」

～ あなたは聴けていますか？ ～

I サムエル 15:22-24

■ 聴く・聞く…

「きく」という文字にあえて「聴く」という漢字を用いるのは耳をもって、十字架の目をもって、心をもって聴くということをお大切にしていかなければならないと思うからです。もう一つの「聞く」という漢字は角に門を立てて聞くという状態ですから、悪い言葉は聞かないということなので、これはこれで意味があります。私達の心はいつも良い言葉と悪い言葉が右往左往しているわけですからそこにちゃんと門を立ててそれを見張って聞くということもとても大切です。また、いつも素直にその言葉に耳を傾けることも必要です。

■ 世々にわたる祝福される法則5 素直に聴く聴く

門をもって聞く聞き方と十字架の目線に立ってイエス様の耳と心になって聴くというこの2つがかかわってきます。聡さとは一般的には「賢い」ということですが私達はなかなか賢くはなりません。何故かという、相手の言うことが正しいと頭ではわかっているけれども心の中にある感情によって聴き方が鈍ってしまうからです。感情は神様が造ったもので本来悪いものではありません。喜ぶ心、間違った問題に対して真剣に、時には熱く、時にはそこに強い憤りをもって向き合う心。イエス様もそうでした。けれど、感情という部分を制御できなくなっている状態、つまり感情的な状態になっている瞬間が問題なのです。以前にも語られたゾウ（感情にコントロールされている側）かゾウ使い（感情をコントロールする側）かの違いです。それによって感情なのか感情的なのかかわります。私達は救われているので天国へ行きます。ところが、私達の価値観は次の世代に継承されていきます。その価値観が聖書であれば良いですが多くの場合聖書っぽい(・・・)、ほとんど(・・・)クリスチャンの価値観になっているのです。だから毎週教会に集い、的を戻すのです。私達にとって何でも無いような出会いの中に実は大きな意味があります。私達が教会で受けてきたものを今度はその出会いの中で流すのです。神様は私達を通して何かをしようとしておられます。けれど、流すことをせずとどめてしまえば受けたものは心で腐って死海のようになってしまいます。そこで、死海にならないための方法として「聴く」ということがあるのです。しかし、聴き方には注意が必要です。「言葉」というものが私達の周りには沢山散らばっていて、自分がしたいと願うことを駄目にする言葉もあり、聴きにくい言葉だけれどそれを実行するとすごい奇蹟が起きるものもあります。

■ ジェームズ・ローガン（アメリカの開拓時代の議員）

母親は18歳の時にアルコール中毒となり、出会ったバーテンとの間にジェームズを身ごもりますが捨てられました。そんな家庭環境の中でジェームズ自身も17歳でコカイン、アルコール中毒になりました。そんなジェームズが変わる決意をしたのは熱心なクリスチャンだった祖父の言葉を通してでした。180度変えられたジェームズは司法試験に受かり、また熱心なクリスチャンの女性と出会い、やがて国会議員となり、アメリカの法律の礎を築いていく人となりました。そんなジェームズがクリスチャンになると何が変わるのかということをや5つ残しています。1) 金銭に対する価値観が変わる 2) 追求すべき目標が変わる 3) 物事の見方が変わる 4) 性格が変わる 5) 人格が備わる

■ ①中心に立って聞く（箴言 20:11-12）

絶えず素直に聴く中心に立って聞くということです。人の言葉は沢山のところに語られています。自分の心の中にも沢山あります。私達はどれかの言葉に偏るのではなく中心にいなればなりません。絶えず中心に立って、でも聞いて下さい。自分にとって都合のいい言葉もあるでしょうし、都合の悪い言葉もあるでしょう。聞きやすい言葉もあるでしょうし、聞きにくい言葉もあるでしょう。けれど、聖書が今自分にそれを言っているかどうかを判断しなければなりません。それを見分けるのが

「なぜ？」です。なぜそんなことが起きたのか、そして今度は自分がどうするかということがスタートするわけです。これは絶対ではありませんが、正しいことというのは割と簡単なことではなく、感情的なことが喜ぶ答えではないことが多いです。神様がせよと言うことは私達の感情的な部分と戦います。だから、自分が感情的になる部分に対してしっかりと「なぜ？」で向き合って欲しいのです。神様は人を通して語ることが結構多いです。だから、人の言葉を「聞かない」ということをやめなければいけません。けれど、「鼻で息をする人間をたよりにするな。」(イザ2:22)と書いてあるのですから人の言葉に右往左往されてはいけません。その言葉を聞いて、それは神様が語っているのかを神様に聞くのです。叱責された時も心を頑なにしていけません。純粋な思いでその言葉を聞かなくてはなりません。混ぜ物をしたり、過去の価値観で聞いたりすると人の言葉は大きく変わってしまいます。ですから純粋に素直にその言葉を受け止めて賢く行っていかなければなりません。

■ ②人を見ない！！

言葉を聴きますが人を見てはいけません。好きな人、嫌いな人、聴きやすい人、聴きにくい人…それは関係ありません。神様を通して語られる言葉を受け止めなければなりません。私達は言葉を受け止めないで人を見ます。人の目線、人の考え方、人がどう思うか…それを考えてしまい耳よりも目が先行するのです。だから、自分の目に十字架を置いて下さい。ダビデは物事を見る時に必ず自分の目に十字架を置いていました。人が話す言葉もみんなイエス様の言葉かそうじゃないのかを判断していました。だから人は関係ないのです。私達は聴く耳のある者にならなければなりません。どんな相手からであっても「耳のある者は聞きなさい。」(マタイ13:9)と言われたイエス様の言葉に耳を傾けて「言葉」として受け取って純粋に分析しましょう。

■ ③聴いて行う

行うことに賢さが必要です。聴くところまでは皆一緒ですが、どう行うかは各々に任せられています。うまくいっている人といいていない人はこの賢さが違います。賢さとは関わる人を育てる力です。私達は最初に救われました。イエス様と共にいます。だから何をやってもうまくいきます。けれど周りの人たちはそうではありません。もしかしたら何をやってもうまくいかなかったり、一時はうまくいくけどいつか終わってしまうのかもしれない。私達はそこに向き合っていかなければならないので、普通には腹が立ちます。けれど、そこで怒ってしまうなら愚かです。「人の怒りは、神の義を実現するものではありません。」(ヤコブ1:20)と書かれているとおりです。厳しさと愛をもってやらなければ人は変えられません。ですから、賢くなければなりません。どうやったらその人がきけるのかを考えるのです。そこには信頼関係が必要です。何を言っても良い状態になった時に向き合うのが賢さです。ソロモンはそれを願いました。「今、知恵と知識を私に下さい。そうすれば、私はこの民の前に出はりたいです。さもなければ、だれに、この大いなる、あなたの民をさばくことができましょうか。」(II歴代誌1:10)私達も神様の前にこれを願っていきたいのです。だから、まず聴く耳を持たなくてはなりません。サウルは神様に従わず、とことん心を頑なに置いて間違った道に進んで行きました。ダビデも従わなかったのですが、その後にとことん悔い改めました。サウルとダビデ。私達はどちらを選びますか？従うか従わないかは自分にしか決められません。聴くか聴かないかです。神様に従ったダビデと賢さを求めたソロモンに倣う道を選び取っていきましょう。